J-6

洪水常襲地域における言い伝えと生活の関連性に関する研究
-埼玉県における降雨・洪水予知の特徴-
Study on between tradition and life the flood-stricken areas
-Characteristics of rainfall and flood of prediction on Saitama Prefecture-

○飯塚智哉[1]，　畔柳昭雄[2]，　菅原遼[3]
*Tomoya Iizuka[1]，　Akio Kuroyanagi[2]，　Ryo Sugahara[3]

Abstract: Japan, because the flood is large, there is a tradition in the region. In this study, we collected the legend, classified, reveal the trend. As a result, can be classified into the other four of the animals ,celestial bodies, the weather and etc, it was found that that obtained the information from those familiar to life.

1．はじめに

古来より，洪水常襲地域では洪水を生活の一部として捉え，災害に対して水屋・水塚や言い伝えが存在し「被災前-被災時-被災後」を考慮した生活が営まれてきた．こうした中，近年，局所的集中豪雨に伴う被害が想定外の地域で多発している．その対応策として，国土交通省では「水防災意識社会」を提言し，水害意識の向上を図っている．また，総務省は防災意識の向上のため，全国の言い伝えを収集し，防災教育の発展に努めている．そこで本研究では，洪水常襲地域における「言い伝え」を収集し，出現単語の傾向を把握し，その特徴を明らかにすることを目的とする．

2．研究方法

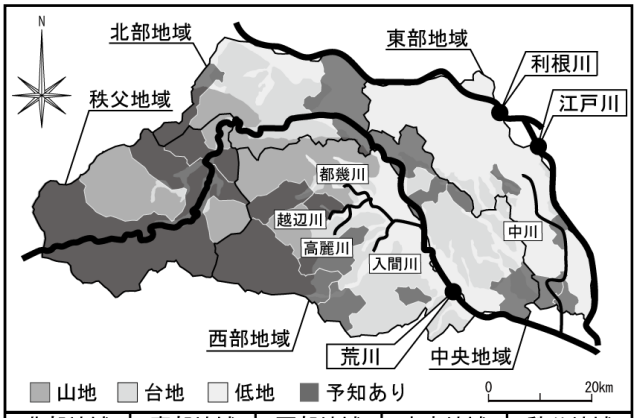
Table1 に調査概要を示す．本研究では，古来より，荒川や利根川の氾濫に伴う洪水常襲地域である埼玉県を対象に，県史や市町村史を用いた文献調査を行い，洪水・降雨予知といった言い伝えを把握した．

3．県内の予知の分布状況

Figure1に県内の予知分布を示す．まず，市町村分布に着目すると，本川の荒川とその支川が流下する市町村に予知が集中していることが分かる．次に，県内の地形と地域に着目すると，まず，荒川と支川が流下する4地域では，西部地域において予知が最多となっており，山地や台地に予知が多く，その大半が降雨予知となっている．次に，利根川・江戸川・中川が流下する東部地域では，洪水予知が5地域中で最多となっており，台地や低地に多い．以上から，河川の流下する地域に予知が多く，降雨予知は広域に分布し，洪水予知は台地や低地といった地形に多いことが分かる．

Table1. Investigation summary

項目	概要
調査対象地	埼玉県（5地域）
調査方法	文献調査（県史・市町村史）
調査期間	2016 年 6 月 3 日～9 月 8 日
調査項目	降雨予知・洪水予知・地理的環境・住まい方



北部地域		東部地域		西部地域		中央地域		秩父地域	
降雨	洪水	降雨	洪水	降雨	洪水	降雨	洪水	降雨	洪水
37	3	89	20	81	5	40	6	27	1

Figure1. Prediction distribution of Saitama

4．降雨・洪水予知の分類

Table2 に降雨・洪水予知の分類を示す．県内の予知 299 語の出現単語の傾向を把握するため，予知毎の主語を抽出し，類型化を行った．その結果，「動物」「天体」「気象」「日常生活」「その他」の 5 つに分類した．

4．1 動物

「動物」では，生息場所により，「空中」「地上」「地中」「水中」の 4 つに分類した．空中では，鳥が該当し，鴉・雀・燕・鳩・椋鳥・鶏がみられ，「鳴くと雨」「低く飛ぶと雨」といった行動による予知がみられた．地上では，馬・猫・鼠・昆虫が該当し，鳥と同様に生活に身近な動物による予知と推測される．また，昆虫においては蜂・蟻・蜘蛛・蛍・蝉がみられ，「巣を低く作ると

1：日大理工・学部・海建 Undergraduate School,Nihon-U.　2：日大理工・教員・海建 Prof,CST,Nihon-U.,Dr,Eng
3：日大理工・教員・海建 Associate Prof,CST,Nihon-U.,Dr.Eng.

Table2. Classification of rainfall and flood prediction

Ⅰ類	動物											天体					
Ⅱ類	空中	地上				地中			水中		合計	月		星		太陽	合計
Ⅲ類	鳥	馬	猫	鼠	昆虫	土竜	蚯蚓	蛇	蛙	魚		月	三日月	星	箒星		
北部	4	1	1	0	4	1	1	4	1	1	18	2	0	0	0	1	3
東部	12	0	4	0	10	2	3	5	9	0	45	6	1	3	2	0	12
西部	9	0	2	0	8	2	2	4	2	4	33	5	1	2	0	0	8
中央	1	0	5	1	11	0	0	2	4	0	24	1	0	2	0	0	3
秩父	1	0	1	0	8	1	1	0	1	1	14	2	1	0	0	0	3
合計	27	1	13	1	41	6	7	15	17	6	134	16	3	7	2	1	29

Ⅰ類	気象									日常生活					その他		
Ⅱ類	風	雷	雲			現象			合計	電車	住宅	身体	生活備品	合計	暦	植物	経験則
Ⅲ類			雲	鱗雲	土手雲	朝焼け	霧	虹									
北部	7	1	2	1	0	2	0	1	14	1	1	0	1	3	1	1	0
東部	10	3	8	2	2	2	0	1	28	1	2	4	1	8	4	0	2
西部	4	5	7	1	2	7	3	3	32	3	2	2	5	12	0	0	1
中央	1	3	0	0	1	1	0	3	9	0	1	0	0	1	6	3	0
秩父	0	0	1	0	0	4	2	0	7	0	4	0	0	4	0	0	0
合計	22	12	18	4	5	16	5	8	99	5	10	6	7	28	11	4	3

雨になる」「声が濁ると雨になる」といった，昆虫の行動や降雨前の鳴き音の変化による予知がみられた．地中では，土竜・蚯蚓・蛇がみられ，いずれも「外に出たら雨が降る」といった降雨前の行動による予知がみられた．水中では，蛙・魚が該当し，鳥や昆虫と同様に，行動による予知と推測される．地域と予知数に着目すると，東部地域において予知が最多であり，昆虫が全単語中で最多となっている．

4．2 天体

「天体」では，「月」「星」「太陽」の 3 つに分類した．天体においては箒星を除き，「暈を被る」「光る」といった天体の状態による予知がみられた．また，箒星は「箒星が飛ぶと大水になる」といった洪水予知で謳われている．地域と予知数に着目すると，東部地域において最多であり，月が天体で最多となっている．

4．3 気象

「気象」では，「風」「雷」「雲」「現象」の 4 つに分類した．風では，「東の風」「北の風」といった各方角からの風による予知がみられた．雷では，いずれも「朝雷は大水のもと」といった洪水予知で謳われている．雲では，雲・鱗雲・土手雲がみられ，雲では，「流れる」「かかる」といった状態による予知がみられた．鱗雲・土手雲では，いずれも，「出ると雨になる」といった出現による予知がみられた．最後に「現象」では，朝焼け・霧・虹がみられ，「朝焼けは雨」「霧が上がれば雨」「朝虹が出ると雨」といった出現・状態による予知がみられた．地域と予知数に着目すると，西部地域において最多であり，風は気象で最多となっている．

4．4 日常生活

「日常生活」では，「電車」「住宅」「身体」「生活備品」の 4 つに分類した，電車では，いずれも「音が聞こえると雨」といった音による予知がみられた．住宅では煙突・階段がみられ「煙がぼやければ雨」「軋むと雨」といった住宅内外の変化による予知がみられた．身体では，腰痛・赤切れ・神経痛がみられ，いずれも「痛むと雨になる」といった，身体状態による予知がみられた．生活備品では，煙草・食品・衣服がみられ，住宅と同様に，変化による予知がみられた．地域と予知数に着目すると，西部地域において最多であり，住宅が日常生活で最多となっている．

4．5 その他

「その他」では，「暦」「植物」「経験則」の 3 つに分類した．暦では，寒中・十五夜・元旦・彼岸がみられ，当日の降雨予知から長期の予知までみられた．植物では，成長状態による予知がみられた．経験則では，「地震が続くと雨になる」「午前の地震は雨になる」といった地震による予知がみられた．

5．結果及び考察

本稿では，埼玉県における降雨・洪水予知の出現単語からその特徴を捉えた．その結果，「動物」が最頻出項目となっており，動物の行動や鳴き声の変化から予知を行い，古人は，動物が気象に敏感と考えていたため，予知として謳われたと推測される．また，出現単語として昆虫が最多となっており，次いで，鳥となっている．これらは，他の動物以上に生活に馴染み深く，動物間の関係として，昆虫の出現により，餌を採る鳥が低い場所を飛ぶといった行動から予知が生まれ，謳われたと推測される．地域の予知数に着目すると，東部地域において動物，天体による予知が最多となっており，西部地域において気象，日常生活による予知が最多となっていた．今後は，情報源や「被災前－被災時－被災後」といった各状況に応じた予知を明らかにするため，統計による分析を行う必要がある．

参考文献

和田一範ら：四国に伝わる災害の教訓に関する考察，土木史研究，第 27 号，pp．301~310，2007